

スキーなかま志賀高原に集う！

北信ブロック・スキーフェスタ開催



↑ 宿泊した『ホテルサニー志賀』の前で

↓ ハーモニカ演奏に合わせて合唱

2018年1月20日～21日の二日間、志賀高原高天原ゲレンデを中心に開催されました。その前日（19日）からは石川・福井の「スキーフェスタ in 志賀高原2018」が開催されており20日からブロック四県合同でのフェスタです。数年ぶりに二日間



とも快晴で60名の参加者は思い思いのグループでいろいろなゲレンデで思う存分滑りを堪能しました。滑り終えて温泉に入り6時からの夕食は各県の銘酒・自慢の「おつまみ」など、さら

に「一年ぶりに顔を合わせた」などで2時間近くの夕食会でした。午後8時からは大広間で交流会です。これ又、各県からの出し物で大盛り上がり、物足りない仲間は各部屋での交流で夜の更けるのも忘れるほどでした。最終日〈21日〉はこれも定例の「平和アピールパネル滑走」です。40センチ×50センチのパネルに「スポーツは平和とともに、スキー協議会」の一字ずつを一人一人が持ち高天原ゲレンデをプルーク滑走で大きなS字を書きながらゆっくりと滑り下り、ハンドマイクで声のアピールもしながらスキーヤーに訴えました。終了後はまたグループでのゲレンデめぐりです、午後2時ごろに、楽しかったブロックフェスタも終了を迎え来シーズンの再開を楽しみに解散しました。富山県からは20名が参加し、初めて参加したKさんは「こんな楽しいのなら来年も参加したい」と言っていました。

記：長谷川 博



←
スキー滑走
で「スポー
ツは平和と
ともに」を
アピール

常願寺川マラソン・ジョギング大会の ボランティアスタッフを募集しています

大会実施日：2018年3月25日（日）

【集合場所】：常願寺川公園中央駐車場の公園管理事務所前

【ボランティアスタッフの集合時間】：午前8時30分（事前打合せを行います。競技開始は午前9時30分で、最終ランナーがゴールするのは午前10時30分過ぎになります。）
主な役割は下記のとおりです。ご協力をお願いします。

★受付係：参加費徴収と資料渡し

★コース係：折返し地点での走者確認と輪ゴム渡し

★スタート・ゴール係：ゴールテープ張りと着順カード渡しと回収、タイムコール

★写真撮影係 ★豚汁サービス係

協力いただける方は下記にご連絡ください。

連絡先 青山光夫さんへ 携帯電話 090-4683-9486

早春の常願寺の流れを見ながら走りませんか

新日本スポーツ連盟第32回全国スポーツ祭典・陸上競技大会記念

第9回常願寺川マラソン・ジョギング大会のお知らせ

河川道路を走ります。初心者・初級者歓迎

2018年3月25日(日)

種目 5kmの部(男・女): 1往復

10kmの部(男・女): 2往復

両部とも午前9時30分同時スタート

*順位表彰はしません。各自掲示時計にて確認

参加費: 中学生以上800円、

小学生以下500円(完走証・傷害保険・ドリンク・参加賞)当日払い可

当日参加も受付ますが中学生以上1,000円とします

受付: 午前8時30分~9時20分

常願寺川公園中央駐車場・公園事務所横にて

申込: 3月21日まで(以降は当日扱)FAXまたは、お近くの連盟員まで

Eメールも可 aoyama_m@mou.ne.jp

主催: 新日本スポーツ連盟 富山県連盟

後援: 常願寺川公園管理事務所 076-463-2034

主管: 雷鳥ランニングクラブ FAXはこちら076-422-2852

問合せ: 青山光夫へ 090-4683-9486



よろしければ、メールアドレスを

第9回常願寺川マラソン・ジョギング大会参加申込書

氏名		男 女	年令	才(大会当日)
住所	〒		種目	km
連絡先電話		所属		

各クラブの予定

富山ハイキングクラブ

2月3日(土)	越形山
2月11日(日)	稲村城山
2月18日(日)	笠尻山
2月24日(土)	笹津山
3月4日(日)	薄波山

三島野スポーツクラブ

2月4日(日)	総会 古洞の森で
2月18日(日)	来拝山
3月11日(日)	雪上訓練 in 利賀 (旧スノーパレースキー場)

編集雑記：「富山の人たちは『雪のプロ』だ」・・・ホントかいな？

今冬の雪の多さ、地吹雪の寒さ。久し振りに「雪国に住んでいるんだな」の実感がありました。圧雪状態のデコボコ道路を走行していると CD プレーヤーの音が飛ぶ程の振動。

何台もの車がハンドルを取られて路肩に突っ込んでいるのをみると、いつから富山県人はこんなに雪に弱くなったのかと首を傾げたくなりました。表日本から移り住んだ人が「富山の人たちは『雪のプロ』だ。」との驚嘆の言葉も、何だかえらく買被りされているようで気恥ずかしい気もしてきます。

屋根の雪下しが大好きで、大雪をワクワクして待望していた体力・気力に溢れていた頃の10年前までの自分は、今は昔の話。除雪作業が身体に應える年齢になった今となっては昭和38年冬の所謂「38豪雪」が再来したら果たしてどうなることやら。自力で雪下しが出来るだろうかと、心細い限り。日本国中高齢化社会となりつつある今、裏日本の独居老人世帯、高齢者夫婦の世帯の困難を思うとどうなることやらこの国は。大仰な「国難」という言葉は、対外的な事件・事態よりむしろ、確実に浸透してくる内発的な衰退の地下水流に本気に対応することを避けて、どこか他人任せで、不実な風潮こそそれに当たるのでは。

